

お客様 各位
サービス工場各社 御中昭和飛行機工業(株)
特殊車両事業部 営業部
サービス課拝啓、貴社益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
弊社タンクローリーの保安基準上の 定期点検時の「留意点」を
送付致しますので、ご活用頂きますようお願い申し上げます。冬季前の リレー・バルブ メンテナンス
及び、エアタンク水抜き

点検箇所	リレー・エマージェンシ・バルブ、エアタンク	点検時期	冬季前 及び、3月毎・1年毎		
点検項目	作動状況、漏れ	点検方法	聴音・目視	点検種類	法定点検、メーカー推奨

確認部位

トレーラのブレーキ・バルブ凍結による車両火災に注意

※※※ブレーキ機器の水分除去のお願い※※※

ブレーキ機器が凍結
車両火災発生！

火事だ！

車両火災のメカニズム

凍結 → ブレーキ効きっぱなし → 過熱 → 最悪火災事故

ブレーキ機器が凍結すると非常に危険な状態になります。凍結を防止するためにエア・タンクの水抜きを励行すると共に、特に冬期に入る前にブレーキ機器の点検整備を行い、ブレーキ用エアに含まれている水分の除去を行ってください。

トラクタとトレーラのエア・タンクからの水抜き

エア・タンクからの水抜きは、道路運送車両法で使用者または運行する人により日常(運行前)点検することが義務付けられており、車両を安全に運行するために非常に重要なことです。

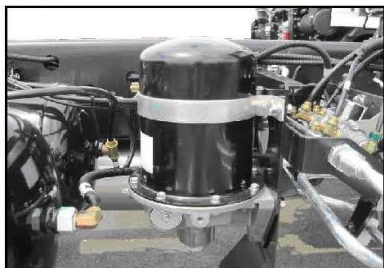
エア・ドライヤを装着した車両においても水抜きを励行し、車両の安全な状態を確保してください。

※エア・タンクから多量の水分が排出されるときは、エア・ドライヤの機能が低下している可能性があります。

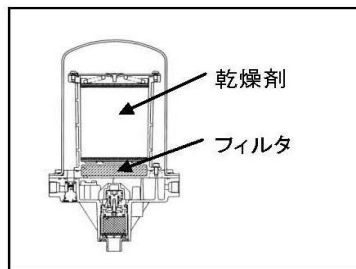
トラクタのエア・ドライヤの点検整備

ブレーキ用エアに含まれる水分は、ブレーキ機器の潤滑油を洗い流して作動を妨げ、冬期においては凍結して作動不良になる危険性があります。これらの問題を解決するためトラクタにエア・ドライヤが装着されていますが、性能を維持するためには定期的な点検整備が必要です。

乾燥剤やフィルタなどの交換時期等については各トラクタ・メーカーの取扱説明書やメンテナンス・ノートに従ってください。



エア・ドライヤの例



エア・ドライヤ内部構造(交換部品)例

確認部位(続き)

トレーラ リレー・エマージェンシ・バルブの点検整備

リレー・エマージェンシ・バルブはトラクタから送られたブレーキ用エアをコントロールし、トレーラ各輪のブレーキを作動させる重要な機能を有しています。

ブレーキ用エアに水分や埃が含まれているとブレーキ機器の作動を妨げ、さらに凍結すると作動不良となり危険な状態になります。**そのため、冬期に入る前には凍結防止のため必ず点検整備を行い、水分の除去および清掃を実施してください。**

リレー・エマージェンシ・バルブの点検整備要領

詳細については各トレーラ・メカの取扱説明書やメンテナンス・ノートに従ってください。

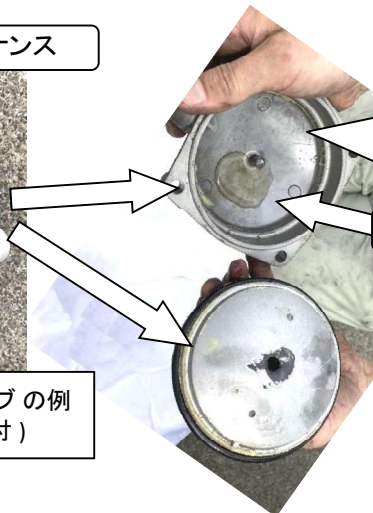
※ブレーキ機器の点検整備は、専門のサービス工場(認証工場)で受けてください。

一般社団法人 日本自動車車体工業会 パンフレットより ー 抜粋 ー

リレー・バルブのメンテナンス



リレー・エマージェンシ・バルブ の例
(リレー・バルブ、ヒータ付)



カバー内部の水分は完全に除去し、清掃のうえグリスアップしてください。内部のゴム製の部品は定期交換部品ですので、確実に交換してください。

(カバー内部の水分→除去下さい)

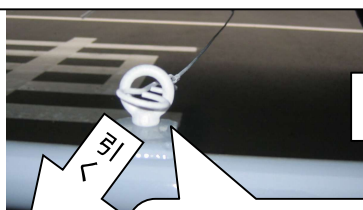
厳冬時には「ブレーキ作動(圧縮)←→ブレーキ解放(膨張)」などのエアの流れにより、内部の水分が凍結する事が有ります。それを防止するため、リレー・バルブのメンテナンスを行い、水分除去に努めてください。もちろん、グリスアップ等の処置も忘れずに施行ください。

エアタンクからの水抜き

※.エア・タンクの凝水(ぎょうすい:水蒸気が凝縮(ぎょうしゅく)して出てきた水)

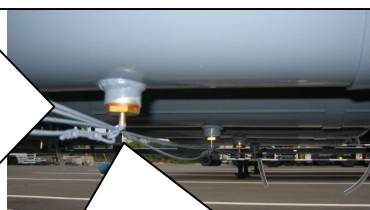
● 凝水の確認・・・法定点検項目(日常、3ヶ月毎、1年毎)

エア・タンクのドレン・ワイヤ (サイドガード部 等)



①(日常点検)
ドレン・ワイヤを引いて、内部の凝水の確認を行ってください。

エア・タンクのドレン・バルブ (エアタンク下部)



②(日常点検)
ドレン・バルブからの凝水を確認し、油混じりの水ではないかをも確認してください。また、ドレン・バルブ周りに油が付着して居ないかについても確認してください。

※. エア・タンク内に凝水や、油混じりの凝水が溜まっていると、ブレーキ制御機器が十分に作動せず、機器内での凍結、誤作動、故障等の原因となります。運行前には必ず凝水がない事を確認し、エア・タンク内を常に清浄な状態に保ってください。

※. 車両に搭載されたエア・タンクの個数を確認してください。必ず全てのエア・タンクの凝水や、ドレン・バルブ周りの油付着状況を確認してください。